

エスカレーター事故

写真は中日新聞 2 月 1 日夕刊である。1 日午前 11 時半ごろ、名古屋国際会議場センチュリーホールで、70 代の女性 3 人が下りエスカレーターで転倒して、2 人が重傷、1 人が軽傷を負った。熱田署によると、最初に女性が転倒したのは 4 階から 3 階へエスカレーターで降りた踊り場付近。他の 2 人も折り重なるように倒れた。会場では集会が開かれており、3 千人が参加。事故直前に集会が終わり、参加者が一斉にエスカレーターに向かった。

この記事に注目したのは、二つの理由からだ。一つは、エスカレーターの危険である。地下鉄を毎日のように利用して、いつも感じるのはエスカレーターの危険性だ。いつ事故が起きても不思議ではない。名古屋では右側が「歩く・走る」のようで、ここを猛スピードで駆け抜けていくのを見かける。その人はともかく、左にいる人も恐怖感を感じてしまう。たまに意地を張って、右側で立ち止まっていると、後ろから「歩け」といった圧迫感を感じる。

とりわけ危険なのは、障害を持った人やお年寄りだ。目の調子がまだ良くない私も、恐怖を感じることが多い。右側の手すりしかつかめない人たちもいるわけで、乗客一人ひとりの「人権意識」を問題にしたい。

もう一つは、名古屋国際会議場についてだ。先の記事でも、市制百周年を記念して 1989 年に開かれた「世界デザイン博覧会」の際に整備された市の施設とある。延べ床面積は 7 万 2 千平方 m で市内最大規模の会議場。事故のあったセンチュリーホールは 3 千人収容で、他に大小 26 の会議室などを備える。同国際会議場のエスカレーターでは、デザイン博覧会の会期中も事故が発生。89 年 7 月、団体見学の小学生が折り重なるように倒れ、36 人が負傷した。

じつは、この国際会議場の指定管理者を選定する委員会の会長を務めたことがある。3 つの選定団体から、「コングレ・名古屋コンベンションビューローコンソーシアム」を選定した。「設置目的の効果的達成」の中に「安全管理」という審査項目もあったが、今回の事故を知って、複雑な気持ちになった。選定に関わった一人として、名古屋国際会議場に今後とも注目していきたい。

(2016 年 2 月 7 日)

